



● 環境色彩研が研究発表者を募集

環境色彩研究会で、2024 年度研究発表会が決まり、発表者を募集しています。

◆開催日時：2024 年 2 月 17 日（土）午後。

◆会場：ZOOM によるオンライン開催。

◆応募資格：1) 環境色彩研究会会員、
2) 日本色彩学会会員、
3) 1 と 2 に該当する者を指導者とする学生。

◆応募方法：発表題目と、研究発表趣旨 A 4 版 1 枚以内と、著者の所属と連絡先を送信。

◆申込締切締切：2024 年 1 月 16 日（火）

◆送信先：萩原京子主査まで。

(kyoko.hagiwara@jp.sunstar.com)

メールタイトルを「環境色彩研究発表会 発表申込」として下さい。上記申請内容により、研究発表の採否がメールで通知されます。

◆発表論文原稿の提出：

原稿：A4 版 4 頁以内（写真・図表を含む）

提出締切：2024 年 2 月 10 日（金）必着。

原稿は Word 書式と、PDF 化したデータの両方提出のこと。送信先は上記 e-mail まで。

◆発表形式：口頭発表またはポスター発表。

口頭発表は、発表 12 分・質問 3 分を予定。

◆発表論文原稿は、研究会誌「環境色彩研究」に掲載されます。

(学会メールニュース No.465 から引用・永田泰弘)

● 湯河原第 3 共同住宅の色彩設計

2019 年、神奈川県湯河原町新崎川沿いに建つ共同住宅（4 棟+集会所：神奈川県住宅供給公社）の外壁塗装改修工事の色彩設計を担当しました。

湯河原町は、湯治場で美しい箱根の山々が背景に広がり、四季折々の風景が楽しめ、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は梅が彩ります。

このプロジェクトでは、湯河原の自然との調和、地域性が持つ伝統的な「和」を感じられる配色を心がけ、木肌を連想させる暖かみのある YR 系をメインに選びました。また建物の形状に合わせ色を分節し、明暗のコントラストを利用して、箱根の寄せ木細工のようなイメージを表現しました。

「自分の階段室がわかりにくい」との住民からの声を受け、同形、同色だった階段室の入り口をそれぞれ「藍」「黄金」「常緑」「撫子」の伝統色で彩り、各階段室が一目でわかるように改善しました。続く階段の上裏も入り口と同じ色で塗ることで、太陽光が差しむと上裏に反射した光が階段室全体に柔らかな色として現れ、この効果は想像以上でした。

第 23 回グッド・ペインティングカラーの改修部門で最優秀賞をいただきました。

(サッコデザインオフィス 鈴木章子)

● 大辞泉ひろいよみ 50 一き

狐色：狐の毛のような薄い茶褐色。

きつるばみ：黄椽。染め色の名。くすんだ黄赤色。木蘭色。もくらんじき。

輝度：きど。光源のまぶしさを示す量。広がりをもつ光源の単位面積当たりの光度で表す。単位はカンデラ毎平方メートル。

輝度温度：高温の固体の表面から放射されるある波長の光の輝度と等しい輝度の黒体の温度。真の個体温度より低い値となる。

きなり：生成り。生形。糸や布地の漂白していないもの。生地そのまま飾り気のないこと。

絹地：絹織の生地。絹布。日本画を描くのに用いる平絹。絵絹。

きぬた：砧。木槌で打って布を柔らかくしたり、つやを出したりするのに用いる木や石の台。また、それを打つこと。

砧青磁：きぬたせいじ。中国、南宋時代に龍泉窯で焼かれた青磁。日本における呼称で、最上級とされた。

きはだ色：黄檗色。キハダの樹皮で染めた明るい黄色。きわだいろ。

黄表紙：表紙が黄色の、江戸後期の草双紙の一。しゃれと風刺に特色をもち、絵を主として、余白に文章をつづった大人向きの絵物語。

* 大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)